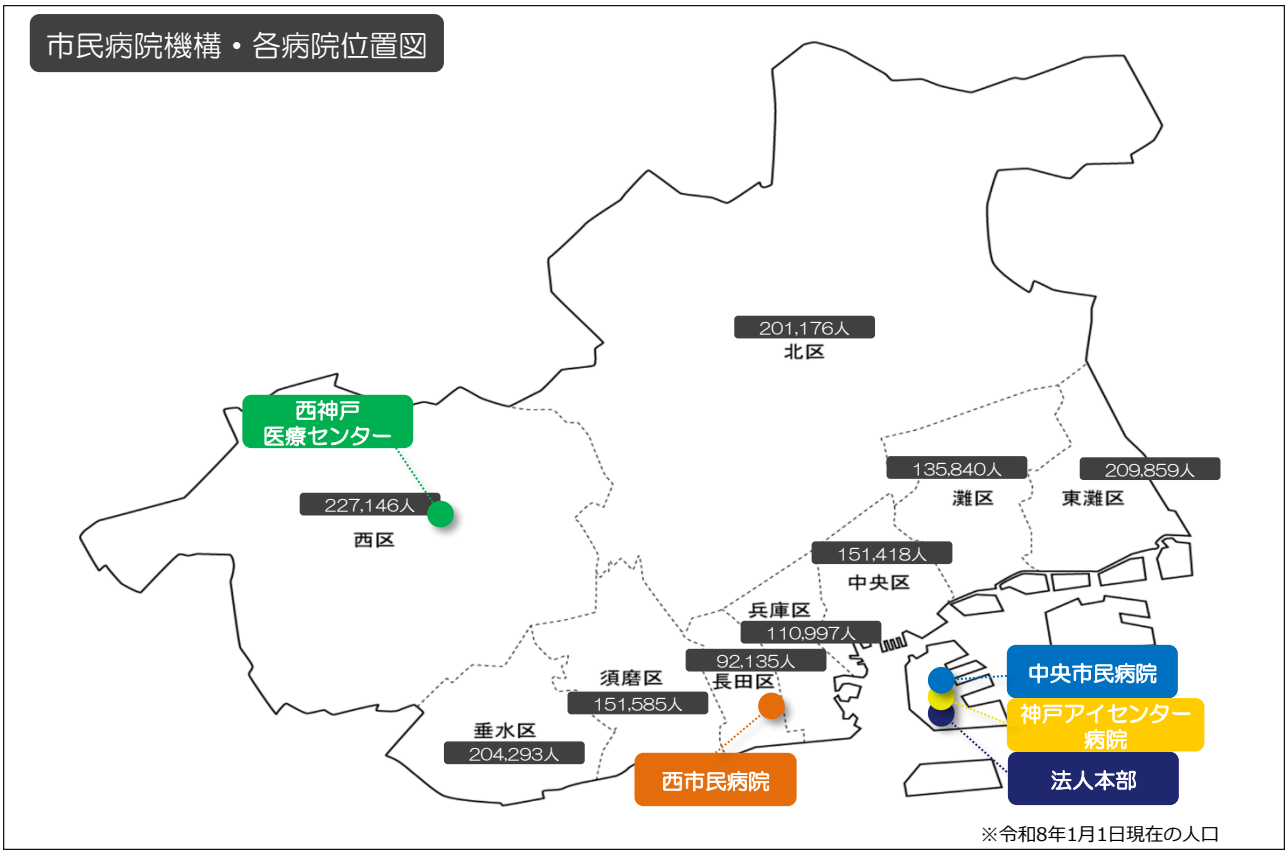
令和７年度 事業報告書・概要版
（令和７年４月１日～令和８年３月31日）

令和８年６月

地方独立行政法人　神戸市民病院機構



※　本文のグラフや表における「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人　神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町２丁目２番地
設立年月日	平成21年４月１日
役員数	12名（令和８年４月１日時点）
職員数	3,785名（令和８年３月31日時点）

◆役員名簿

（令和８年４月１日時点）

役職		氏名	備考
理　事　長	常　勤	橋本　信夫	
理　　事	常　勤	貝原　聡	中央市民病院長
理　　事	常　勤	中村　一郎	西市民病院長
理　　事	常　勤	北垣　一	西神戸医療センター院長
理　　事	常　勤	平見　恭彦	神戸アイセンター病院長
理　　事	常　勤	習田　嘉章	法人本部長
理　　事	非常勤	國井　総一郎	兵庫県公立大学法人理事長
理　　事	非常勤	村上　卓道	神戸大学大学院医学研究科内科系講座 放射線医学分野教授
理　　事	非常勤	髙折　晃史	京都大学医学部付属病院病院長
理　　事	非常勤	丸山　美津子	兵庫県看護協会会長
監　　事	非常勤	今井　陽子	弁護士（東町法律事務所）
監　　事	非常勤	谷澤　実佐子	公認会計士・税理士（谷澤公認会計士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床
一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床／SCU：12床／HCU：28床）
感染症：10床　MPU：8床



- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。

地域医療支援病院　救命救急センター指定病院　病院機能評価認定施設　災害拠点病院　地域がん診療連携拠点病院　第一種感染症指定医療機関　総合周産期母子医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
②充分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
④24時間体制での救急医療を実践する
⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和８年３月３１日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床
一般病床：358床（うち、HCU：7床）



- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。

地域医療支援病院　病院機能評価認定施設　がん診療連携拠点病院に準じる病院　認知症疾患医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

① 患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
② 医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
③ 救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
④ 高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
⑤ 地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
⑥ 医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
⑦ 職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和８年３月３１日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：470床
一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）　結核病床：45床



- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。

地域医療支援病院　病院機能評価認定施設　地域がん診療連携拠点病院　結核指定医療機関

◆基本理念

神戸西地域に根づいた安心・安全な医療をめざします

◆基本方針

① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準や職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和８年３月３１日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床
一般病床：30床（眼科）



- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。

国家戦略特区指定

◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いをつなげる役割を果たします。

◆基本方針

① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
⑦ そして、未来につなげます

決算概要

◇◆法人全体◆◇

国際情勢の影響による原油価格の上昇や物価高騰等を背景に、全国的に公立病院の経営環境が厳しい状況にある中、令和７年度から令和９年度までの３か年以内に各病院が単年度黒字を達成することを目標に掲げ、令和７年度においても経営改善に取り組みました。

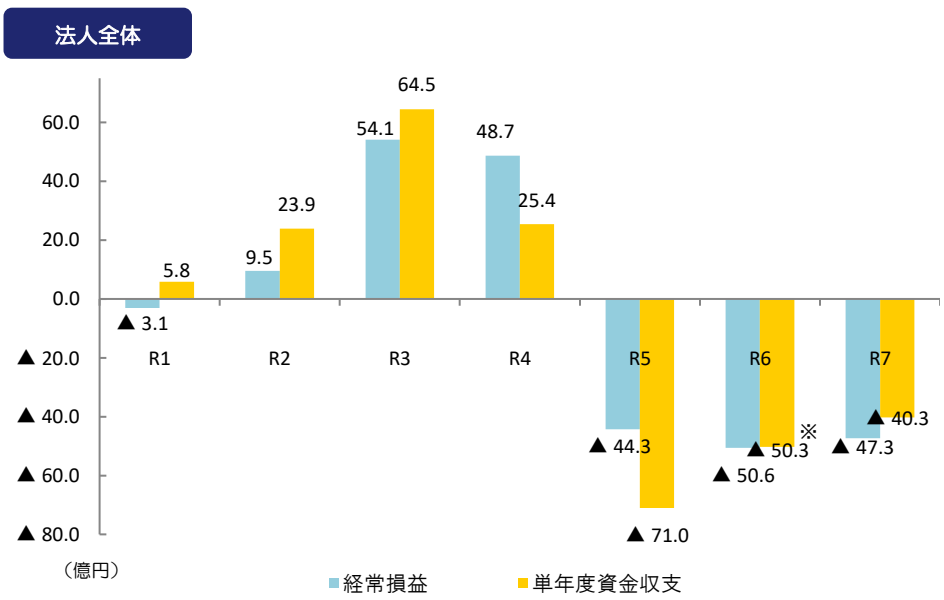
収益面では、救急患者の積極的な受入れや、地域の医療機関への訪問活動、手術室の運用効率化など、各病院の特性に応じた取り組みを進めた結果、病床利用率の向上による患者数の増加（＋８億円）や高額手術の実施等により、医業収益は前年度比で26億円の増加となりました。

一方、費用面では、看護師定着促進に伴う支給人員の増（＋４億円）及び退職給付費用の増（＋9億円）といった一時的な給与費の増や材料費の増（＋14億円）等により、医業費用は前年度比で29億円の増加となりました。

また、国の総合経済対策に基づく補正予算から約８億円の支援を受け、これらの結果、法人全体の経常損益は47億円の赤字、当期純損益は50億円の赤字、単年度資金収支は40億円の赤字となりました。

令和８年度においては、積極的な救急医療の提供や地域医療機関との更なる連携強化により、紹介患者数・新入院患者数の増による病床利用率の向上、診療報酬改定も踏まえた各種加算の取得率向上や新たな加算の取得など、さらなる収益確保に取り組むとともに、物価高騰が続く中、費用抑制を図るため、人件費や委託費等といった固定費の削減を進めています。令和９年度までに単年度黒字を達成するため、経営改善を着実に実行することで、 持続可能な病院経営の早期確立を目指します。

グラフ１：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）



※R6年度の単年度資金収支には、別途『設立団体納付金 27億円』がある

◇◆病院別◆◇

① 中央市民病院

病床運用の効率化、地域連携の強化により、新入院患者数及び病床利用率が上昇し、外来においても、高額医薬品の使用量増等に伴い診療単価が上昇したことから、医業収益は増加しました。

費用面では、委託内容の見直しによる経費削減等に取り組んだものの、医薬品費など材料費の増加や給与費の増加等により、医業費用も増加し、経常赤字となりました。

② 西市民病院

DPC期間Ⅱを意識したベッドコントロールや医療機関訪問による集患対策等の取組みに加え、新たに急性期充実体制加算等を算定したことにより、医業収益は増加しました。

費用面では、委託業務の見直しや光熱水費の削減等の取り組みを進めましたが、物価高騰等に伴う材料費の増加や給与費の増加等により、医業費用も増加し、経常赤字となりました。

③ 西神戸医療センター

救急入院を積極的に受入れた結果、入院患者数が増加し、外来では高額医薬品の使用増に伴い診療単価が上昇したことで、医業収益は増加しました。

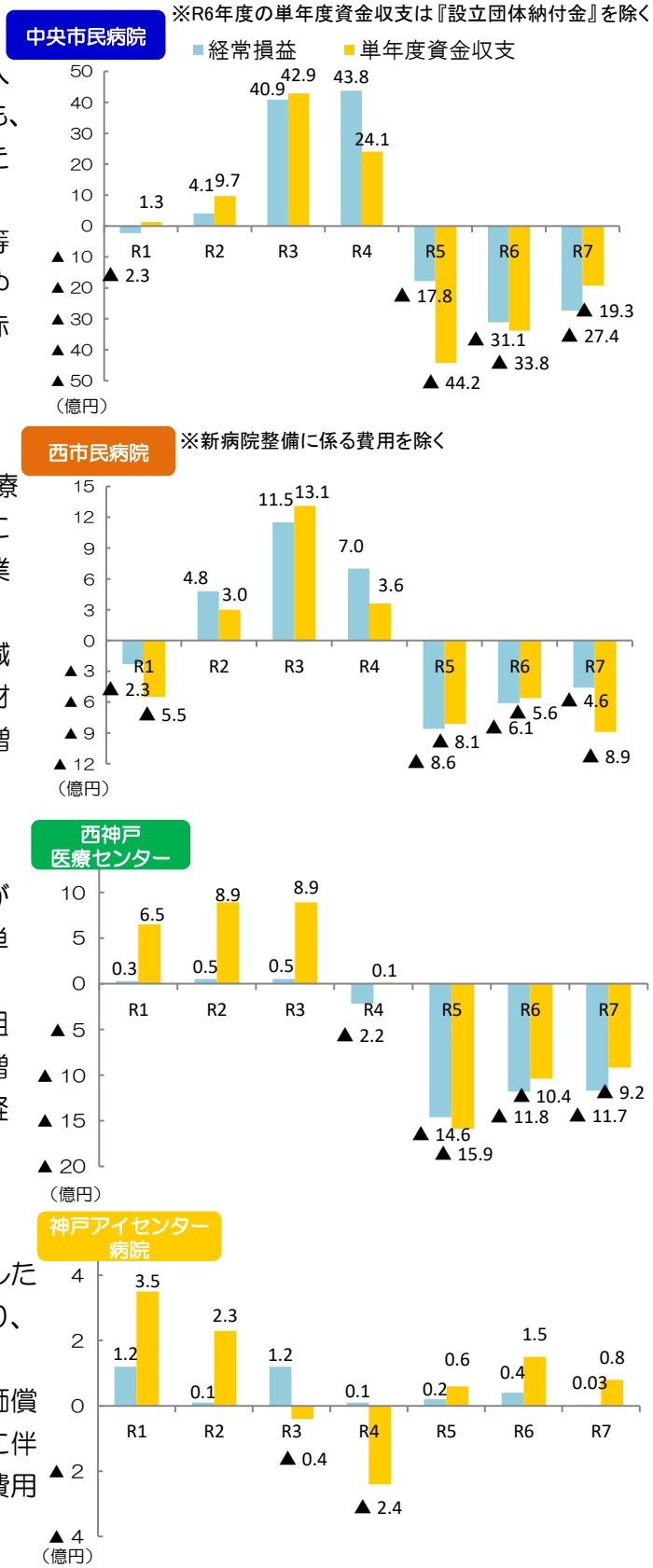
費用面では、内製化による委託費削減等に取り組みましたが、高額医薬品の使用増に伴う材料費の増加や給与費の増加等により、医業費用も増加し、経常赤字となりました。

④ 神戸アイセンター病院

医師の離職等の影響により延患者数が減少しましたが、入院日数の見直しや、高額手術の件数増により、診療単価が上昇し、入院収益は増加しました。

費用面では、前年度に更新した電子カルテの減価償却費の増加の影響があったものの、薬価引き下げに伴う材料費の減や経費削減の取り組みにより、医業費用が減少し、経常黒字を確保しました。

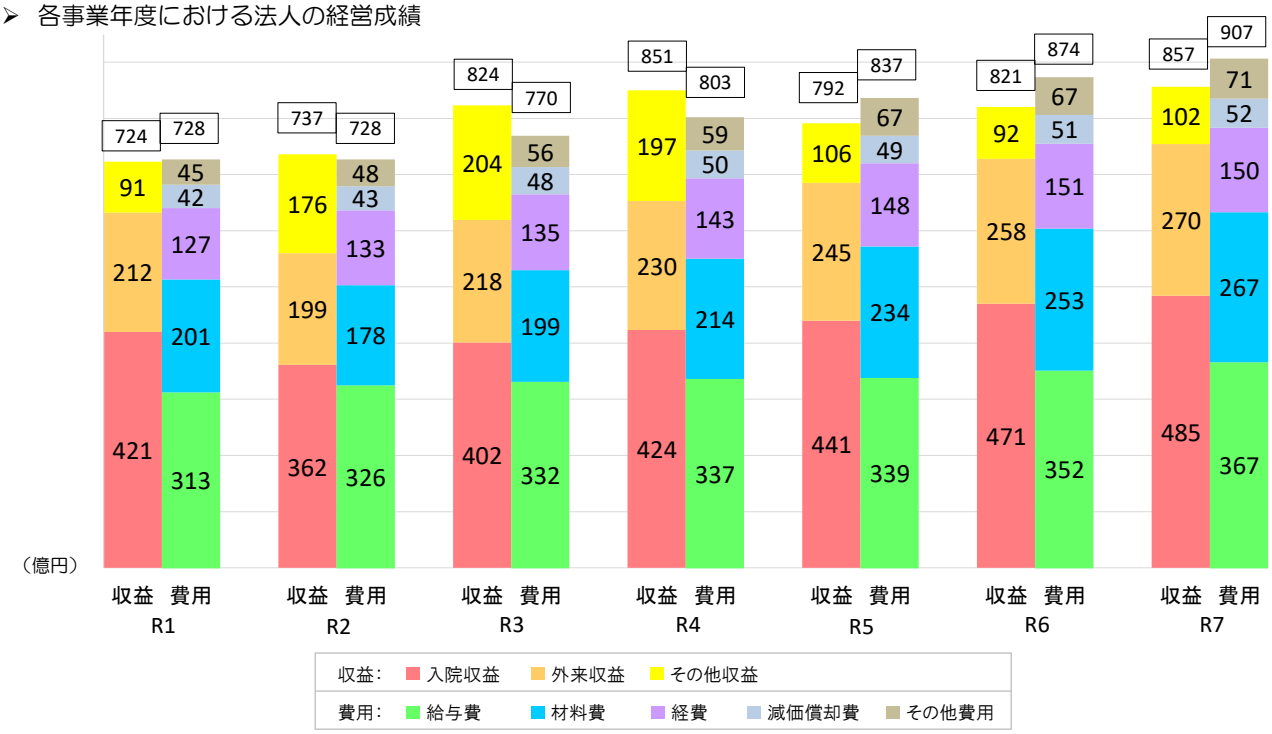
グラフ２：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）



◇◆財務諸表の概要◆◇

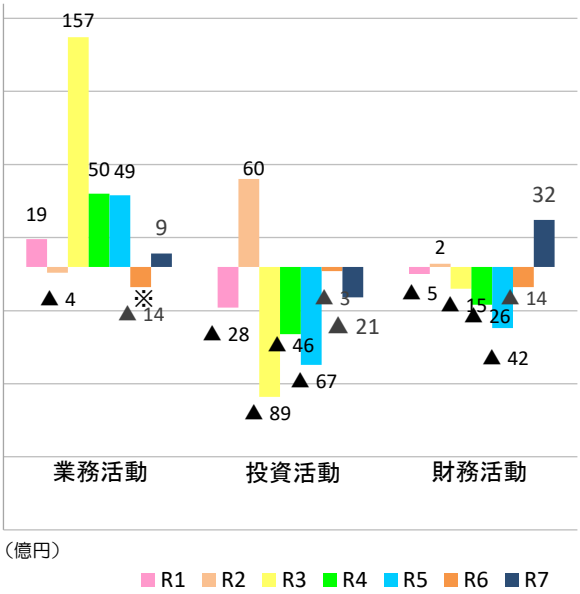
グラフ３：損益計算書

➢ 各事業年度における法人の経営成績



グラフ４：キャッシュ・フロー計算書

➢ 各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示

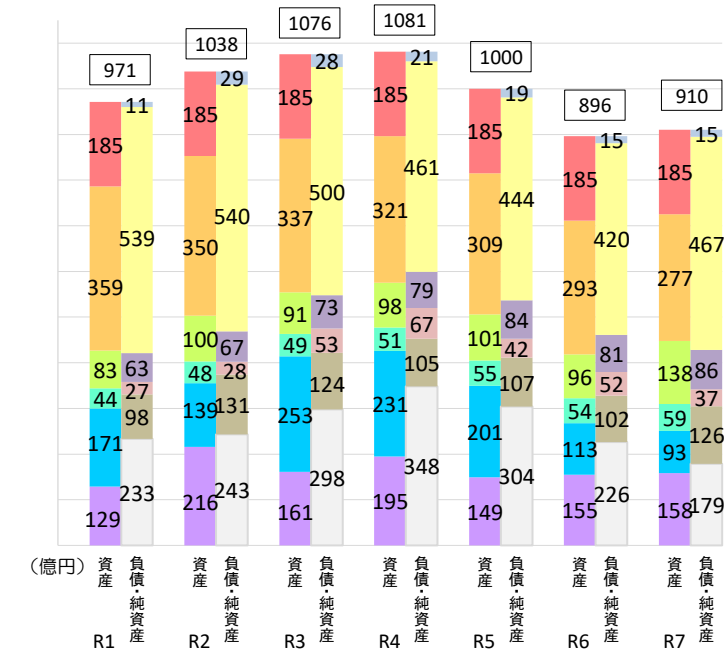


- 令和７年度末の現金及び預金残高は93億円となっています。

※ R6年度の業務活動には、別途『設立団体納付金の支払 27億円』がある

グラフ５： 貸借対照表

➢ 各事業年度における法人の財政状態



神戸市立医療センター中央市民病院

ア 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

病床管理の一元化や下り搬送の運用等により、より多くの救急患者を円滑に受け入れる体制を構築し、質の高い救急医療の安定的な提供に努めました（グラフ６）。

また、厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※」において、12年連続で１位に選ばれました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 全国救命救急センター評価12年連続１位（写真１）
  （評価対象となる全47項目において満点を獲得）
- 救急医療体制の充実・病床運営の効率化を図るため、病院救急車による下り搬送※の正式運用を開始（写真２）

グラフ６：救急患者数の推移（人）

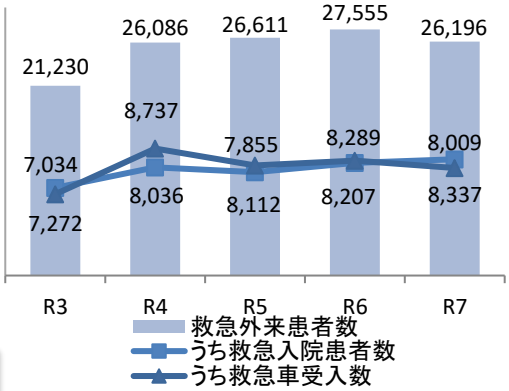




写真１　全国救命救急センター評価

イ 高度な専門医療の提供

脳卒中や急性心筋梗塞等の一刻を争う疾患については、専用ホットラインを設け、多職種チームでの受け入れ対応を行いました。

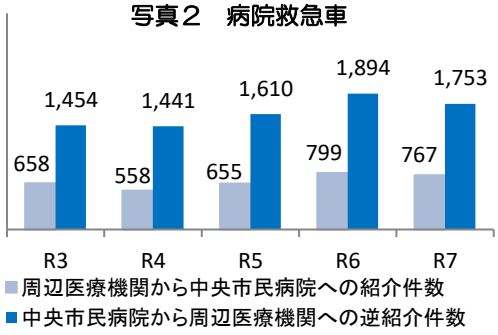
がん治療については、手術支援ロボットを使った手術や細胞治療を継続するとともに、新たな放射線療法（前立腺がんに対する放射性リガンド療法）を開始しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 疾患別の専門医を中心に多職種スタッフで構成されたチームによる高度専門医療の提供
- 前立腺がんに対する放射性リガンド療法※を新たに開始
- メディカルクラスター※内でのがん医療連携を継続
  （グラフ７）



写真２　病院救急車



グラフ７：中央市民病院の周辺医療機関との連携件数の推移（件）

＜全国救命救急センター評価＞
- 厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

＜下り搬送＞
- 三次医療機関等の救急医療機関で初期診療を実施した後、連携する他の医療機関に転院搬送を行うこと。

＜放射性リガンド療法＞
- がん細胞に特異的に結合する物質（リガンド）に放射線を出す物質を結合させ、体内で直接がんを攻撃する最先端の核医学治療のこと。

＜メディカルクラスター＞
- 神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

ウ 神戸医療産業都市の中核機関として治験･臨床研究の推進

医師主導治験や特定臨床研究※の支援体制を構築するとともに、治験・臨床研究を推進しました（グラフ８）（表１）。また、法令等に基づき倫理性と科学性確保のもとで研究を円滑かつ安全に遂行しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 臨床研究において４件の特許を出願（いずれも企業との共同出願）
- 実用化に向けた研究を継続し、２件の商品化を実現（小児用点滴保護バンド、ワイヤレス脳酸素モニター装置）

グラフ８：企業治験・臨床研究（特定臨床研究を除く）件数の推移（件）

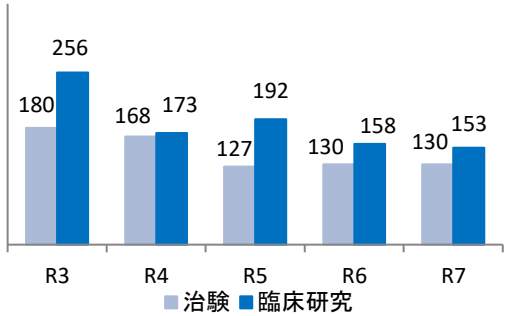


表１： 特定臨床研究・医師主導治験実施件数（件）

項目	R5	R6	R7
特定臨床研究	69	60	57
うち当院が研究責任者	5	1	2
医師主導治験	13	10	8
うち当院が研究責任者	0	0	0

エ 高度な小児･周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター※として、合併症妊娠、重症妊娠中毒症、切迫早産、胎児異常等のハイリスク母体への診療対応を積極的に実施しました。

また、低出生体重児や病気をもった新生児についても、最新の医療技術を用いた診療により、救命に努めました（グラフ９）（写真３、４）。

◆令和７年度の主な取り組み

- 連携登録施設（産科・産婦人科44施設、小児科110施設）との情報共有
- 産科ホットライン※、小児科ホットライン※を継続

グラフ９：ハイリスク妊娠及びハイリスク分娩件数（件）

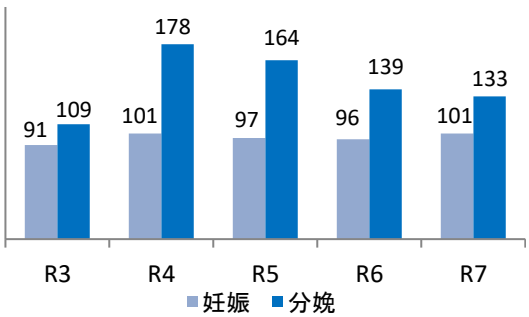


写真３　超緊急帝王切開術※シミュレーションの様子





写真４　胎児超音波検査の様子

＜特定臨床研究＞
- 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

＜総合周産期母子医療センター＞
- 新生児集中治療管理室（ＮＩＣＵ）や母体・胎児集中治療管理室（ＭＦＩＣＵ）を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応が可能な医療機関。

＜ホットライン＞
- 地域医療機関からの受け入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線で、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科、外傷のホットラインを設置している。

＜超緊急帝王切開術＞
- 胎児の救命を目的に、30分以内の児娩出をめざす帝王切開のこと。

神戸市立医療センター西市民病院

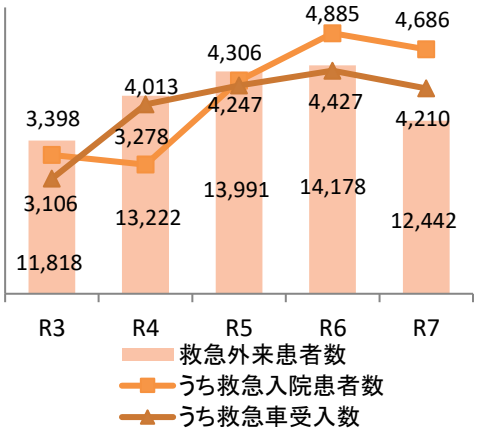
ア 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

２次救急病院として24時間365日受け入れに努め、安定した救急医療体制の提供により、地域全体の救急医療の充実に寄与しました（グラフ10）。

◆令和７年度の主な取り組み

- 救急当番医の配置・一部夜勤帯のオンコール体制により、24時間体制で救急医療を提供
- 兵庫県より救急医療・救急業務功労者表彰を受賞

グラフ10：救急患者数の推移（人）



イ 高齢化の進んでいる地域の医療機関として、低侵襲医療とADLを重視し、地域の医療介護機関との連携により治し･支える医療の提供

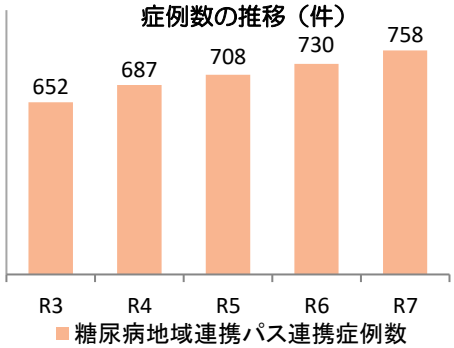
手術支援ロボットを用いた腹腔鏡手術を積極的に実施し、高水準な治療の提供に寄与しました。

また、地域医療機関に向けて、生活習慣病の悪化防止に関する研修会を積極的に行いました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 手術支援ロボットを用いた腹腔鏡手術件数の増加
- 糖尿病地域連携パスの利用促進（グラフ11）

グラフ11：糖尿病地域連携パス連携症例数の推移（件）



ウ 地域のハイリスク分娩に対応できる周産期医療の提供

出産前から出産後まで質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに、ハイリスク妊娠・分娩にも対応し、安定的な周産期医療を提供しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 妊産婦のニーズに応えるため、硬膜外無痛分娩※を開始
- 育児支援が必要な母子を対象に、産後ケア事業※を継続（写真５）
- 産婦人科のインスタグラムにて、妊婦に有用な情報を定期的に発信（写真６）



写真５　産後ケア入院



写真６　産科インスタグラム

＜硬膜外無痛分娩＞
- 陣痛の痛みを軽減するために、硬膜外腔に麻酔薬を注入し、下半身の痛みを和らげる方法。

＜産後ケア事業＞
- 産後のお母さんが心身を休めながら、授乳や沐浴などの育児技術を見につけられるよう助産師などの専門家がサポートする事業。

エ 地域需要に対応した小児医療の提供

地域で唯一の小児二次救急輪番体制確保を継続し、安定的な小児救急医療の提供に努めました（グラフ12）。

また、各科・多職種による協力のもと、アレルギーをはじめとした小児疾患の対応を行いました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 保護者や子どもの保育等に関わる人を対象とした「小児アレルギー講習会」を開催（写真７）
- 小児科と連携をとりながら病児保育室を運営し、地域の病児を受け入れる等、医療の面から地域の子育て環境を支援

グラフ12：小児救急患者数（人）

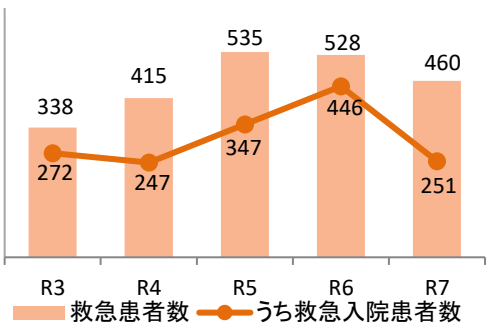




写真７　小児アレルギー講習会

オ 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症疾患医療センターとして、認知症鑑別診断※（グラフ13）や認知症専門医療相談を継続するとともに、認知症への理解を深めるための啓発活動等、市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に寄与しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- レカネマブ※治療に加え、ドナネマブ※治療を新たに開始
- 患者やその家族を対象とした音楽療法を実施
- 「認知症へのそなえ」をテーマにした市民公開講座（写真８）や、「臨床美術（クリニカルアート）体験」をテーマにしたオープンカンファレンスを実施

グラフ13：認知症鑑別診断件数の推移（件）

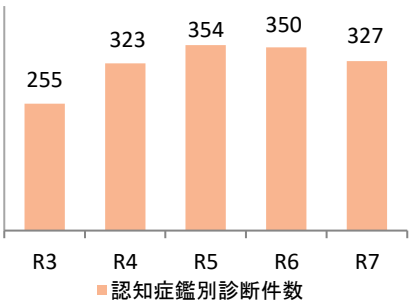




写真８　認知症をテーマにした市民公開講座

＜認知症鑑別診断＞
- ＣＴ、ＭＲＩ、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

＜レカネマブ、ドナネマブ＞
- 認知症の専門診療を適切に行えるための基準を満たした医療機関でのみ使用できる軽度認知症に対する新規治療薬。

神戸市立西神戸医療センター

ア 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

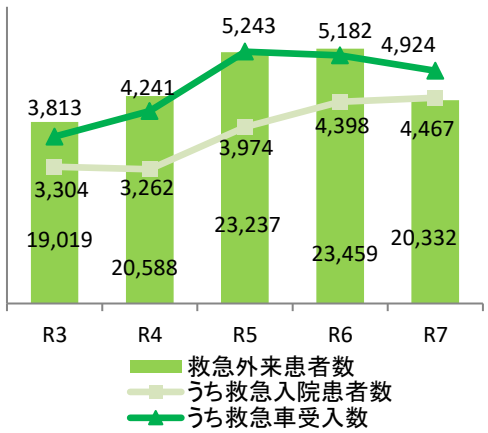
24時間体制の安定した救急医療体制を確保するほか、高度急性期医療の充実を図りました。

また、救急入院の必要な患者の受入に注力し、救急入院患者数が増加しました（グラフ14）。

◆令和７年度の主な取り組み

- 地域の消防署との意見交換会を実施し、密接な連携を維持しながら救急車受入推進に向けた体制を強化
- 手術室増設および外来改修工事に向けた設計業務の実施

グラフ14：救急患者数の推移（人）



イ 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

小児の二次救急医療体制※及び小児救急二次輪番※に参加し、小児患者の救急車要請及び地域の医療機関や一次診療所からの紹介に対応しました（写真９、グラフ15）。

また、神戸西地域のみならず、明石市や三木市等の周辺地域からの紹介も断ることなく応需に努めるなど、小児救急体制を安定的に提供しました。

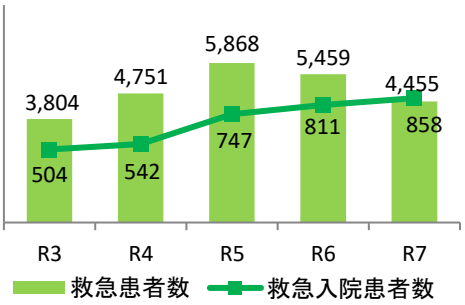
◆令和７年度の主な取り組み

- 周辺地域からの紹介も断ることなく応需に努めるなど、小児科関連の救急車要請に積極的に対応
- 専門外来においても、アレルギー、未熟児、神経、循環器を中心に充実した診療体制を維持



写真９　小児病棟プレイルーム

グラフ15：小児（15歳以下）救急患者数の推移（人）



＜救急医療体制＞
➢ 神戸市では限られた医療資源を有効に活用し、より適切な医療を提供するため、救急医療機関の持つ医療機能に応じて初期・二次・三次と救急患者の受入体制を整備している。

＜病院群輪番制＞
➢ 神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。西神戸医療センターでは、毎週土曜日と第２・第３水曜日の夜間、第２・第５日曜日の日直帯に小児救急二次輪番を担当。

ウ 地域における高度な周産期医療の提供

小児科が対応可能な32週以降の母体搬送受け入れ及びハイリスク妊婦・ハイリスク分娩をはじめとした地域の需要に応じた周産期医療を提供しました。

また、妊娠中の方全員を対象に、うつに対するスクリーニングを行い、精神的ケアに取り組みました（写真10）。

◆令和７年度の主な取り組み

- 神戸市の産後ケア実施施設の承認を受け、運用を開始
- ㈱ファミリアのサポートクリニック※として、オリジナル肌着一体型ベビー服の活用や、フォトブースの設置を継続（写真11）
- 産科病室の内装リニューアルを実施（写真12）



写真10　妊婦相談室


写真11　病棟に設置された
ファミリアのフォトブース

エ がん患者への幅広い支援と集学的治療の提供

国指定の地域がん診療連携拠点病院※として、手術支援ロボットによる低侵襲な手術や放射線治療装置による高精度な放射線治療、がん化学療法など、総合的ながん治療に取り組みました。

また、遺伝カウンセリングの実施により、がんゲノム医療の充実に取り組みました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 常勤の腫瘍内科医師を配置し、がんゲノム医療連携病院※の指定に向けた手続きを開始
- 服薬指導、口腔ケア、栄養指導、がんリハビリテーションの実施等、多職種によるアプローチでがん患者のQOLの改善に貢献（写真13）


写真12　産科病室

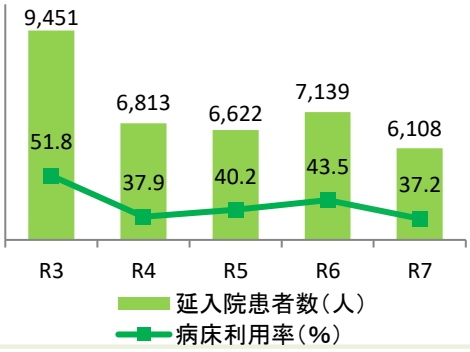

写真13　管理栄養士による栄養指導

オ 結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病棟を有する病院として、総合的な結核医療を提供しました（グラフ16）。

また、結核患者のフレイル評価を行い、リハビリテーションによる機能回復に努めました。

グラフ16：結核に関する指標の推移



＜サポートクリニック＞
- ファミリアでは、妊娠してから出産までの約270日と、赤ちゃんが生まれてから2歳の誕生日を迎えるまでの730日を合わせた1,000日をサポートする取り組みを行っている。

＜地域がん診療拠点病院＞
- がん医療圏に１カ所整備し、専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、がん患者に対する相談支援及び情報提供を担う。

＜がんゲノム医療連携病院＞
- 中核拠点病院や拠点病院と連携し、中核拠点病院や拠点病院が実施するエキスパートパネルに参加、患者さんに説明できる病院。

神戸市立神戸アイセンター病院

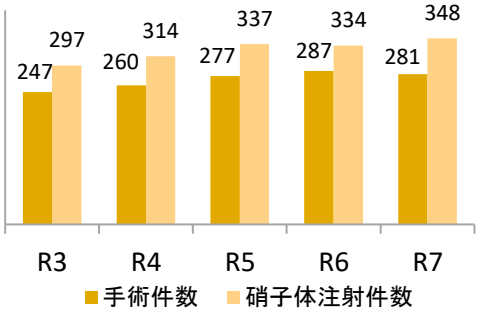
ア 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療を提供するとともに、新しい治療への取り組みを進めました。

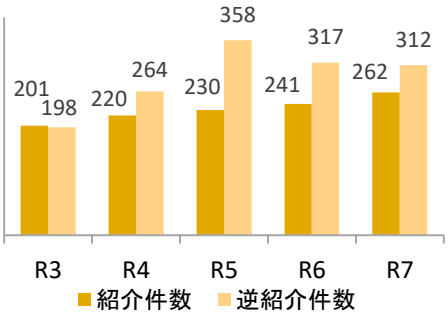
◆令和７年度の主な取り組み

- 硝子体注射件数が過去最多を更新（グラフ17）
- 地域医療機関訪問等の取り組みによって、紹介患者数が過去最多を更新（グラフ18）
- 24時間365日体制での眼科救急を中央市民病院と連携して対応（休日・夜間対応件数：グラフ19）
- iPS実用化に関し、先進医療承認に向けた手続を継続
- 眼科領域における日本初の遺伝子治療「ルクスターナ注」を継続実施
- 遺伝性網膜ジストロフィー遺伝学的検査の適用拡大を目指し、先進医療Bの届出に向けて準備

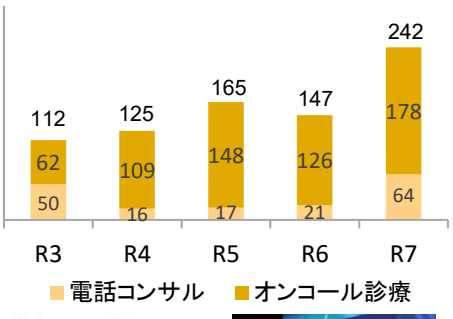
グラフ17：手術件数・硝子体注射件数（件/月）



グラフ18：紹介・逆紹介件数（件/月）



グラフ19　眼科救急対応件数（件/年）



イ 治験･臨床研究を通じた次世代医療の開拓

ゲノム編集技術を用いた、より有効で安全性の高い（免疫拒絶反応が起こりにくい）改良版iPS細胞の研究開発を進めました。

世界初の自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植について、術後10年でも腫瘍化等の異常は確認されませんでした。

◆令和７年度の主な取り組み

- アジア太平洋眼科アカデミーにて、世界初の自家iPS細胞由来網膜色素上皮シート移植における報告について最優秀演題賞を受賞（写真14）
- ビジョンケアグループと共同して、海外医療機関とiPS細胞移植における症例検討会を実施（写真15）



写真14　アジア太平洋眼科アカデミー



写真15　iPS細胞移植症例検討会

＜日本初の遺伝子網膜疾患に対する検査及び遺伝子治療＞
➢ 夜盲（暗いところでものが見えにくくなる）や視野狭窄（視野が狭くなる）などの視覚障害が生じる網膜の病気である遺伝性網膜ジストロフィーの遺伝子診断及び遺伝カウンセリングに関して、検査については保険適用に向けて国に申請し、保険収載が認められ、さらに日本網膜硝子体学会から中央市民病院と連携して治療を行う治療実施施設として認定を受けた。これによって、眼科領域における日本初の遺伝子検査及び遺伝子治療の提供施設となった。

KOBE EYE CENTER

ウ 患者の日常生活支援と患者満足の向上

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION協力のもと、生活・就労相談等視覚障害者への支援を継続しました。

退院・外来患者アンケートにより、適宜必要な改善を行い、患者状態に対応した食事の提供を行うなど、引き続き高い満足度を維持しました （写真16）。



写真16　視覚障害に配慮した食事

◆令和７年度の主な取り組み

- アイセンター公式Xにて定期的に情報を発信
- 職員向け視覚障害者歩行誘導研修の継続実施（写真17）
- 市民向け広報誌をリニューアル（写真18）
- 障害者手帳の取得に関する支援を継続実施
- 外国人対応として診察時の医療通訳をタブレットを利用して実施
- 患者通院支援アプリ「NOBORI」の活用を継続



写真17　歩行誘導研修



写真18　市民向け広報誌

エ 診療･臨床研究を担う未来の医療人材育成

各部門において策定した部門計画をもとに、部署内での勉強会や学会発表を行いました。

国内外から研修生等を受け入れ、眼科領域での教育、人材育成に貢献しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 第36回日本緑内障学会を栗本院長（当時）を会長として神戸で開催（写真19）
- 連携大学院制度での大学院生の採用及び他大学等（香川、岐阜、中国、台湾）からの研修生を受け入れ（写真20）
- 国立障害者リハビリテーションセンターと合同でフィリピンからの実習生4名を受け入れ（写真20）



写真19　日本緑内障学会



写真20　海外等からの研修生・実習生

＜神戸アイセンター公式キャラクター「テンボー」＞
- 絵本作家のヨシタケシンスケ氏が神戸アイセンターの活動をわかりやすく情報発信する「モシクワ係」に就任。公式キャラクター「テンボー」を活用した取り組みを開始し、視覚障害者に前後がわかる切れ込みを入れた新診察券にも利用。

市民病院としての共通の役割

ア 災害医療の提供

県内の災害拠点病院をはじめとする医療機関や警察、消防、介護施設等と連携し、災害時における役割分担の確認や協力体制について情報共有を行いました。各病院においても、大規模災害等に備えて防災訓練を実施しました（写真21～写真26）。

- 中央市民病院：近畿地方DMAT※ブロック訓練や大規模地震時医療活動訓練への参加
- 西市民病院：長田区の災害時医療・介護提供協議会への参加
- 西神戸医療センター：西区災害対応連絡会等への参加

また、災害時でもインターネットが利用できる衛星通信サービス（Starlink※）を利用した神戸市の情報伝達訓練に参加し、災害発生時の行政機関や他の災害対応病院との情報共有等の確認を行いました。



写真21　近畿地方DMAT
ブロック訓練（中央）


写真22　大規模地震時医療活動
訓練（中央）


写真23　総合防災訓練（中央）

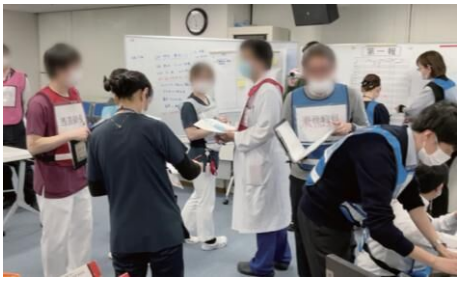


写真24　地震訓練（西）


写真25　防災訓練（西神戸）



写真26　3日分の備蓄食（西神戸）

イ 新興感染症等への対応

令和６年度に兵庫県と締結した医療措置協定に基づき、感染症発生初期からの病床確保など、新興感染症に備えた体制を確保しました。

感染状況など必要に応じて感染マニュアルの更新、感染対策チームによる院内ラウンドを実施するほか、地域医療機関とカンファレンスを実施し、医療の提供や感染拡大防止に関してのノウハウの提供や支援を行い、地域における指導的役割を果たしました。

＜DMAT＞
- Disaster Medical Assistance Team
  大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム。

＜Starlink＞
- アメリカ合衆国の民間企業スペースXが運用している、低高度を軌道する衛星を活用したインターネットアクセスサービス。通信環境が整備されていない山間部や離島、災害や戦争が起きたエリアでも、高速・低遅延のインターネット接続が可能。

地域医療機関との連携強化及び地域への貢献

(1) 地域医療機関との連携強化

地域連携セミナーやオープンカンファレンス等の開催、地域医療機関への訪問等を積極的に実施し、顔の見える連携を強化しました。また、患者やその家族等の状況に応じた入退院の支援を実施することなどにより、地域包括ケアシステムの推進・運用に努めました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 他院のMSW※等と共同で、MSW NETWORK MEETINGを開催（中央）（写真27）
- 入退院支援システム「CAREBOOK」の活用（中央・西・西神戸）
- 機関紙「れんけい」のリニューアル（西神戸）（写真28）
- 地域医療機関のニーズ把握のため、診療所訪問を実施（４病院）



写真27　MSW NETWORK MEETING（中央）



写真28　刷新された機関紙（西神戸）

(2) 人材育成等における地域貢献

神戸市看護大学をはじめ、近隣大学や高等学校に対して、学校訪問や学校主催の合同就職説明会に参加する等、相互に密な連携を構築しました。

また、医師、看護師をはじめとした医療系学生を対象に実習受け入れを行い、教育病院としての役割を果たすことで将来的な医療の質向上に寄与しました（写真29）。

(3) 市民への情報発信

患者向け広報誌、ホームページや、公開講座等により、分かりやすい情報の発信に努めました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 「まちの文化祭」、「まちの病院博」にてブース出展（西）
- 社会保険労務士による相談会「がん患者さんのための仕事と暮らしの相談会」を継続実施（西神戸）
- 市民向け広報誌「みんなのテンボー」の刷新（アイ）



写真29　病院見学の様子

＜MSW＞
- Medical Social Worker（医療ソーシャルワーカー）の略称。病院をはじめとした保健医療機関にて相談業務にあたるソーシャルワーカーのこと。

信頼と満足が得られる医療の提供

(1) 患者の意思決定の支援

患者や家族との相互理解を図り、患者の意思決定を尊重したインフォームド・コンセント※を徹底しました。また、希望する患者に対しセカンドオピニオンを継続して実施しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 遠方在住や来院が困難な患者のため、オンラインセカンドオピニオン体制を継続（中央）
- 将来の医療・ケアに対し、本人による意思決定支援の取り組み（ACP）を推進（西神戸）

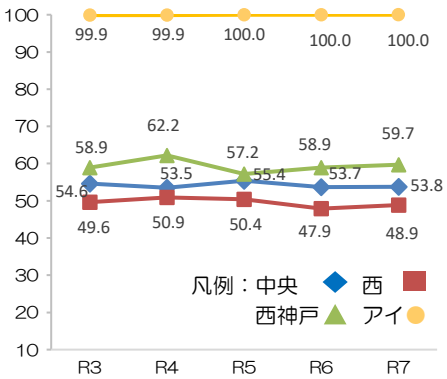
(2) 医療安全対策の徹底

外部有識者を交えた「医療安全会議」の開催や、週１回の「医療安全ミーティング」の実施等を通じて院内への周知徹底を図り、患者が安心・安全に医療を受けることができるよう医療安全意識のさらなる醸成に努めました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 多職種による医療安全ラウンドを実施（中央）
- 身体拘束最小化チームを設置、身体拘束研修を実施(アイ)

グラフ20：クリニカルパス適用（%）



(3) 最適な医療の提供

クリニカルパス※の積極的な適用とともに、高齢化で複雑化する疾患に対し、最適な医療の提供に努めました（グラフ20）。

(4) 患者サービスの向上

患者満足度調査により患者ニーズを把握し改善に努め、さらに待ち時間の有効活用や短縮に向け対策を検討しました。

医療通訳制度や音声自動翻訳機を利用し、外国人患者にとっても安心・適切な医療を受けられるよう取り組みました。

◆令和７年度の主な取り組み

- マイナ保険証の利用促進（４病院）（写真30）
- 患者満足度調査に加え、患者経験調査（PX）※を実施（中央）
- Web予約変更サービスを開始（西）
- 待ち時間縮減を目的として、通院支援アプリシステム Wellcne（ウェルコネ） を導入（西神戸）（写真31）



写真30　マイナ保険証セルフ認証エリア（中央）



写真31　通院支援アプリシステム Wellcne（ウェルコネ）（西神戸）

＜インフォームド・コンセント＞
- 医療を提供するに当たり、医療従事者が患者・家族に適切な説明を行い、患者・家族が病状や治療について十分に理解したうえで治療に同意するプロセスのこと。

＜クリニカルパス＞
- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

＜患者経験調査（PX）＞
- PX：Patient eXperience。患者の経験を評価し、医療の質を患者の視点から向上させることを目的として実施する調査のこと。

業務運営の改善及び効率化

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

市民病院職員としての使命感を持ち、高い専門性と協調性、豊かな人間性を兼ね備えた医師、看護師等の確保・育成に取り組みました。また、資格取得支援制度、留学制度等（表２）により職員の能力向上等の支援を継続しました。

制　　度	利用者数
資格取得支援制度	38名
看護職員長期留学制度	6名
看護職員大学院留学制度	2名
短期国内外派遣制度	1名

表２　主な制度の利用者数（令和７年度）

◆令和７年度の主な取り組み

- 看護職員について積極的な採用活動の実施（法人本部）
- ロボット支援手術シミュレーターの導入等による医療系研修の充実（中央）（写真32）
- 事務職員のキャリア形成をテーマにした同規模民間病院との交流会に参加（西）
- 手話研修や歩行誘導研修等の実施（アイ）



写真32　集中治療部医師による中心静脈カテーテル挿入トレーニング（中央）

(2) 医師等の働き方改革の推進

DXの推進や多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアの推進、生成AI等を活用した業務の効率化、労働時間の適正化など、全職員の業務負担軽減を図り、働き方改革を推進しました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 臨床工学技士による麻酔補助業務の運用開始（中央）
- 電子カルテ内のコミュニケーションサービスの運用開始（西）
- 携帯端末導入による業務の効率化（西神戸）（写真33）
- 医師事務作業補助者の継続配置による医師の負担軽減（アイ）



写真33　看護師向け携帯端末（西神戸）

(3) 職員が意欲的に働き続けることのできる環境づくり

育児に関する制度の見直しを継続して実施したほか、日頃の勤務成績や資質をより多角的に評価する「実力・人物本位」の人事制度へと移行するため、従来の試験による選考を廃止し、新たな昇任選考制度を導入しました。

2. 効果的かつ効率的な業務運営体制の構築

常任理事会等で各病院の運営状況や課題などを共有しながら、迅速かつ効果的・効率的な組織運営を行いました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 毎月の常任理事会にて現状分析や課題の把握を行い、解決に向けた取り組みの検討・実施
- 全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施

財務内容の改善

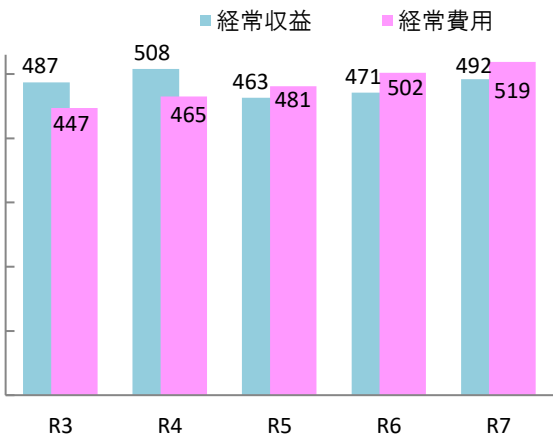
1. 経営改善の取り組みと経常収支目標の達成

(1) 経常収支目標の達成に向けた収入確保及び費用の最適化

効率的な病床運営、地域医療機関との連携推進等による新規患者の受け入れ等により医業収益確保に努めました。また、医薬品について、薬価改定に対応した交渉期間を確保し、費用の削減を図りました。

グラフ21：経常収益・経常費用（億円）

中央市民病院



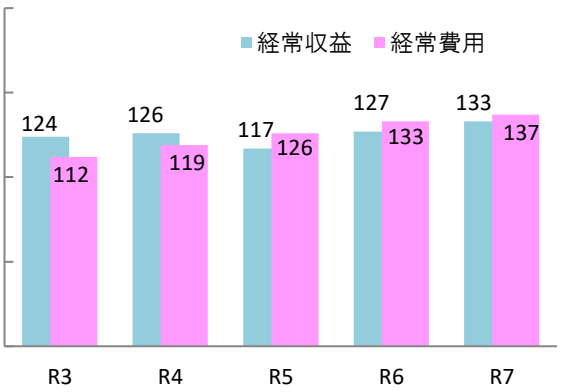
○ 中央市民病院

◆令和７年度の主な取り組み

- 小児病床33床のうち12床を成人病床へ変更し、病床の有効利用の促進
- 新たな施設基準の取得等による収益増（リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算等）
- 業務の廃止を含め、実施回数や配置数など仕様の見直し等による費用の削減

西市民病院

※新病院整備に係る費用を除く

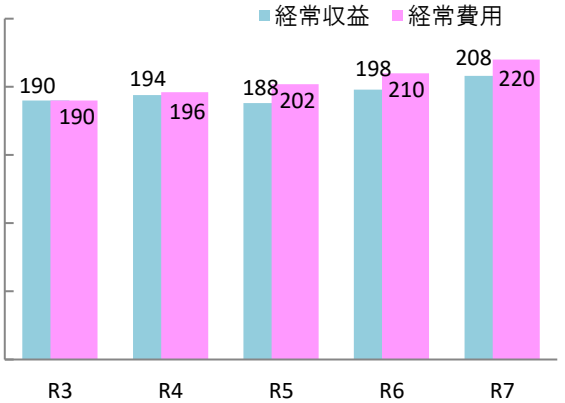


○ 西市民病院

◆令和７年度の主な取り組み

- DPC入院期間Ⅱを意識した病床運営に関する会議の毎週実施や積極的な地域医療機関訪問による集患活動を通じた病床稼働率の向上
- 新たな施設基準の届出等による収益増
- 委託事業の見直しや院内照明のLED化等による費用削減

西神戸医療センター



○ 西神戸医療センター

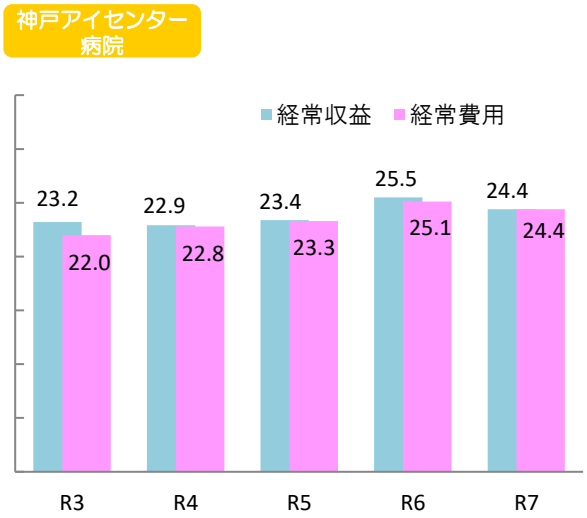
◆令和７年度の主な取り組み

- SPD業務を直営化し、委託コストを削減
- 経営改善室会議等において、DPC係数や各種加算算定件数、病床稼働率の向上への取り組みを促進
- 高額材料の預託在庫化や在庫定数を適正化

○ 神戸アイセンター病院

◆令和７年度の主な取り組み

- 外来・手術枠を迅速かつきめ細やかに調整することを徹底
- 地域医療機関訪問を継続して実施し、紹介患者数は過去最多を更新
- 硝子体注射件数が過去最多、入院単価が過去最高
- 神戸アイセンター病院の建物維持管理を直営化
- 空調の稼働時間等を見直しにより電気代を削減



※神戸アイセンター病院は、過去５か年以上（令和元年度から令和５年度）、経常利益を計上し、経営努力の状況及び地域医療に果たしている役割を総合的に評価され、令和７年６月に総務大臣表彰を受賞しました。

○ 法人本部

持続可能な病院経営の実現に向けて、令和７年度から令和９年度までの３か年以内に各病院が単年度黒字を達成することを目指し、収益・費用の両面で経営改善に取り組むとともに、その進捗管理に努めました。

また、医薬品や診療材料について各病院と法人本部との連携により、継続的な価格交渉を行うとともに、委託料の削減など経営改善に取り組みました。

(2) 計画的な投資の実施

第４期中期計画の投資計画に基づき、高度医療機器等について、経年劣化した機器の更新を中心に、医療安全の向上や今後の収益性を十分に勘案した上で、必要な機器等の導入を行いました。

◆令和７年度の主な取り組み

- 経年劣化、医療安全の向上、収益性等を勘案して投資計画を作成するなど優先順位を付けた医療機器等の更新（4病院）
- 令和７年７月に外壁（北・東面）の改修工事を完了したほか、経年劣化した既存設備の保全・改修を計画的に実施（西神戸）

2. 令和8年度における経営改善の取り組み

令和８年度においては、病床利用率の向上や地域医療機関との連携強化による新規紹介患者の獲得など収益確保に引き続き取り組むとともに、委託費等の固定費を削減するなど、さらなる経営改善に取り組んでいます。

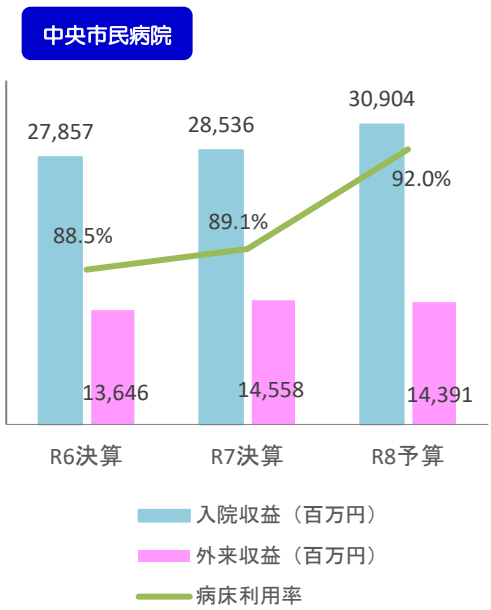
令和９年度までに全病院が単年度黒字を達成するため、聖域のない経営改善を着実に実行することで、持続可能な病院経営の早期確立を目指します。

○ 中央市民病院

◆令和８年度の主な取り組み

- 病院長直轄の横断型タスクフォース（TF）による多角的な経営改善の推進
  - ➢ 病床利用率の向上等による収益改善
  - ➢ 品目集約等による材料費の削減
  - ➢ 契約内容の精査による徹底した費用の削減　等
- 地域医療機関との連携強化による紹介患者数の増加
- 各種加算の算定率向上による診療単価の向上
- 人員配置の最適化及び仕様見直しによる委託費削減

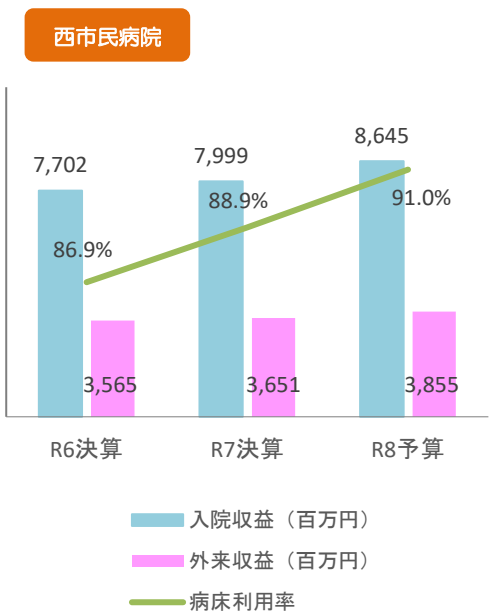
グラフ22：入院・外来収益（税込）・病床利用率



○ 西市民病院

◆令和８年度の主な取り組み

- 救急車の積極的な受入による救急入院患者数の増加（目標：4,500人以上）
- 戦略的な増患対策による紹介患者数の増加
- DPC期間Ⅱを意識した病床運営、診療報酬改定への積極的な対応による医業収益の確保
- 多職種連携による材料費・経費の徹底的な削減



○ 西神戸医療センター

◆令和８年度の主な取り組み

- 入院治療（がん化学療法等のレジメン）の対象拡大による収益確保
- 業務の内製化及び人員配置の最適化による医事委託費の削減
- 搬送ロボット運用開始（令和８年４月１日～）による既存搬送設備の維持管理費削減（写真34）
- 診療体制の強化を目的とした、手術室および外来診察室増設

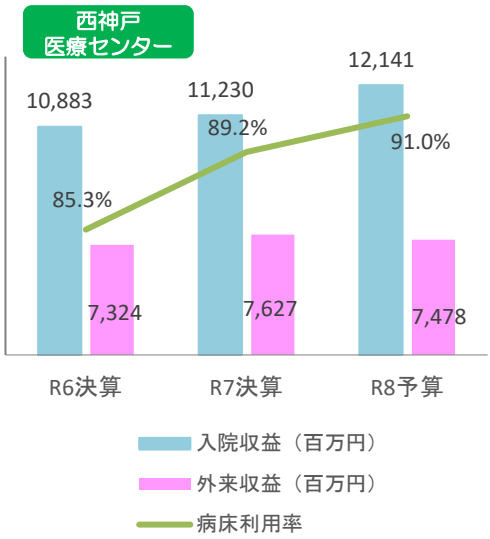


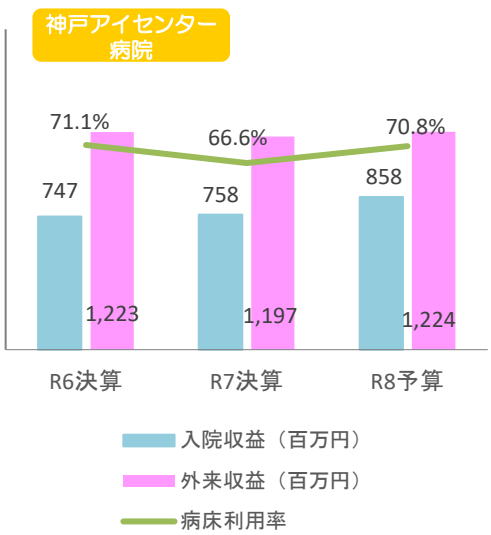


写真34　搬送用ロボット（西神戸）

○ 神戸アイセンター病院

◆令和８年度の主な取り組み

- 紹介・逆紹介の一層の推進及び地域医療機関への訪問活動を通じた地域連携の強化・信頼関係の構築
- 手術枠の運用見直しによる手術件数の増加
- コスト管理の徹底による費用削減
  - ➢ 仕様の精査等による委託費の適正化
  - ➢ 材料等の使用量のさらなる適正化
  - ➢ 節電など省エネの取り組みによる光熱水費削減



○ 法人本部

◆令和８年度の主な取り組み

- 月次及び四半期決算等を通じて、各病院の経営状況及び経営改善の進捗管理を徹底
- 診療報酬改定への対応支援や各病院の実情を踏まえた国への要望等の積極的な実施
- 医薬品や診療材料について、法人本部と病院との緊密な連携による価格交渉の実施
- 業務効率化による経費削減や業務量の精査によるさらなる体制縮小の検討

その他業務運営に関する重要事項

1. DXの推進

マイナ保険証の利用促進や電子処方箋、医療扶助のオンライン資格確認、救急時医療情報閲覧機能など、国の動向等を注視しながら各病院の状況に応じた医療DXを進めました。

また、事務部門についても業務効率化を進め、職員が働きやすい環境整備に努めました。

◆令和７年度の主な取り組み

・人事給与システムからグループウェアへの人事情報の日次自動連携を開始し、アカウント管理の一元化を実施

・病院管理下の一部の端末を対象として、汎用型生成AI Gemini の運用を開始し、文案作成の補助や情報検索の迅速化等、事務負担軽減と業務効率化を推進（写真35）



写真35　生成AI Gemini

2. 情報セキュリティ対策

今後の生成AI利活用を見据え、情報セキュリティポリシーを改正しました。また、情報セキュリティリスクに対し、これを回避、提言する技術的対策を講じるとともに、全職員を対象とした研修を実施し、職員の情報リテラシー向上を図りました（写真36）。



写真36　訓練実施の様子

3. 西市民病院の再整備

令和７年５月に改定した基本計画に基づき、新病院整備に向けた基本設計を着実に進めました（令和８年２月に基本設計を公表）。

また、実施設計デザインビルド事業者の選定に向けた入札公告を実施するとともに、新病院整備事業等の周知に向けた住民説明会を開催しました。

◆令和７年度の主な取り組み

・新病院基本設計の策定（写真37）及び実施設計デザインビルト事業者の選定に向けた入札公告の実施

・地域貢献として、人材育成等にむけた市街地西部地域の合同研修会の開催及び複数病院での合同イベント「まちの病院博」を開催



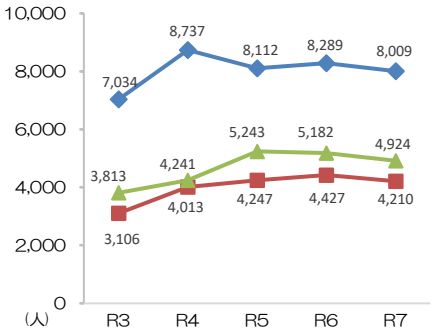
写真37　新病院外観のイメージ

新病院に関するウェブサイト

医療機能等指標･主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は◆　西市民病院は■　西神戸医療センターは▲　神戸アイセンター病院は●　法人全体は◆　で表示

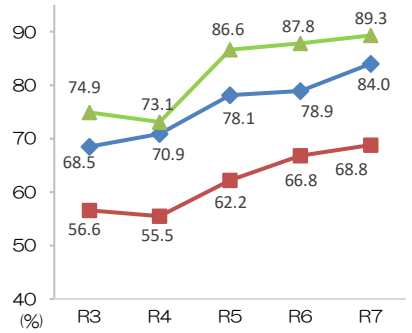
（1）救急車受入



＜令和７年度計画目標値＞

西市民病院	4,500人以上
西神戸医療センター	5,000人以上

（2）紹介率

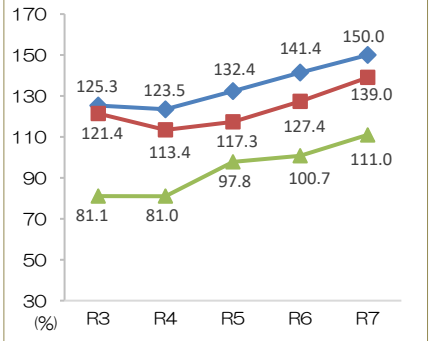


＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	75.0%以上	達成
西市民病院	60.0%以上	達成
西神戸医療センター	85.0%以上	達成

※神戸アイセンター病院は、紹介患者数により１日12.0人と目標を設定し、１日13.0人という結果だった。

（3）逆紹介率



＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	135.0%以上	達成
西市民病院	115.0%以上	達成
西神戸医療センター	95.0%以上	達成

※神戸アイセンター病院は、逆紹介患者数により１日13.5人と目標を設定し、１日15.0人という結果だった。

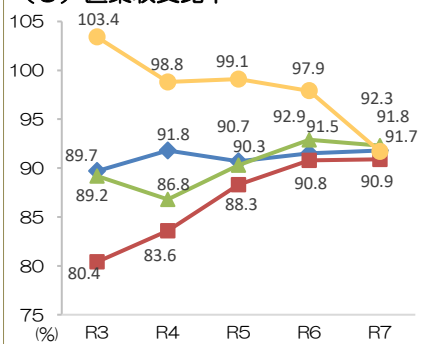
（4）経常収支比率



＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	94.6%	達成
西市民病院	96.1%	
西神戸医療センター	99.4%	
神戸アイセンター病院	100.0%	達成

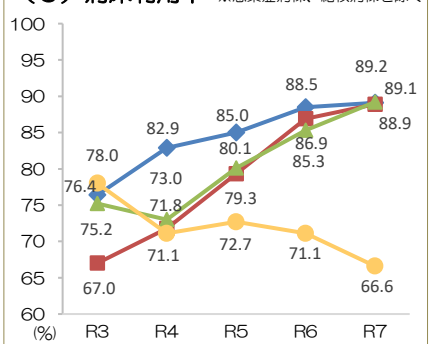
（5）医業収支比率 ※運営費負担金等を除く



＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	88.6%	達成
西市民病院	91.3%	
西神戸医療センター	94.3%	
神戸アイセンター病院	91.6%	達成

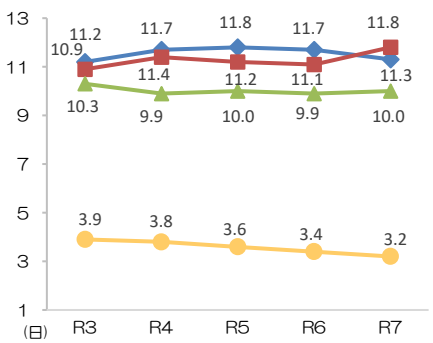
（6）病床利用率 ※感染症病棟、結核病棟を除く



＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	92.0%
西市民病院	92.0%
西神戸医療センター	91.0%
神戸アイセンター病院	74.2%

（7）平均在院日数

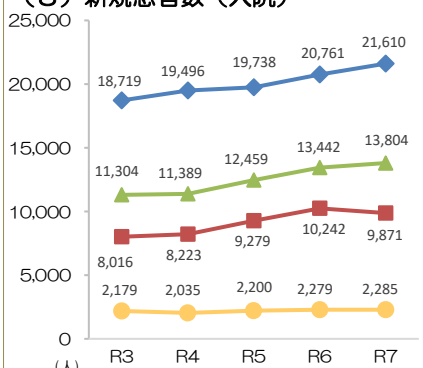


＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	11.0 以下	
西市民病院	11.3 以下	
西神戸医療センター	10.0 以下	達成
神戸アイセンター病院	3.4 以下	達成

※西：地域包括ケア病棟を含まない

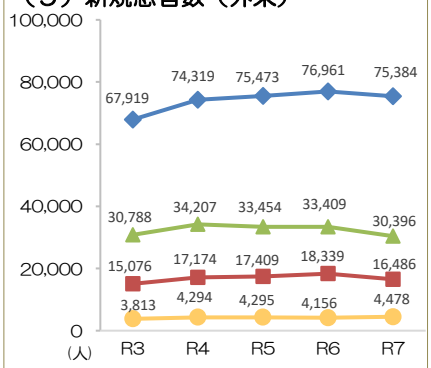
（8）新規患者数（入院）



＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	22,895 以上
西市民病院	10,585 以上
西神戸医療センター	14,124 以上
神戸アイセンター病院	2,373 以上

（9）新規患者数（外来）

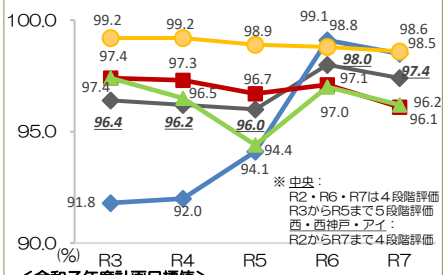


＜令和７年度計画目標値＞

中央市民病院	77,798 以上
西市民病院	19,200 以上
西神戸医療センター	37,436 以上
神戸アイセンター病院	4,356 以上 達成

10. 医療機能等指標・主要経営指標の推移

（10）患者満足度調査（入院･外来）

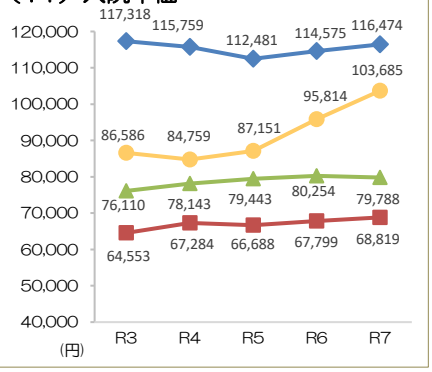


＜令和７年度計画目標値＞

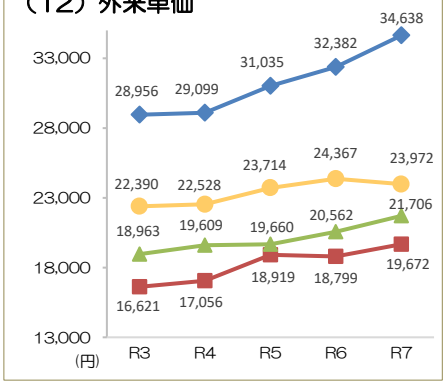
法人全体	95.0%以上 達成

※４病院の入院・外来満足度調査結果（とても満足、やや満足の割合）の平均値

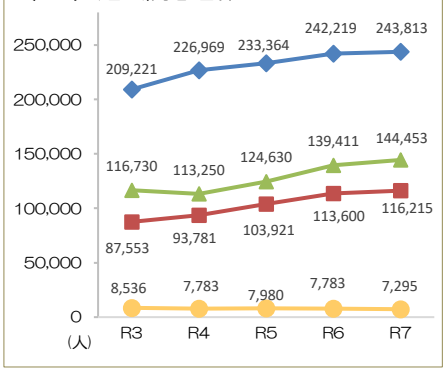
（11）入院単価



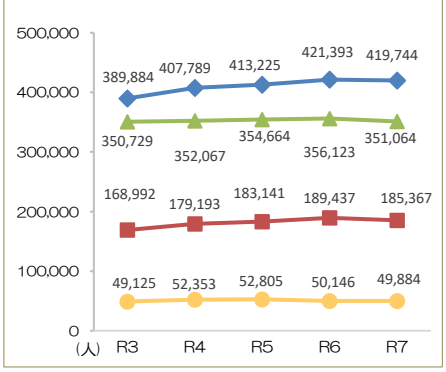
（12）外来単価



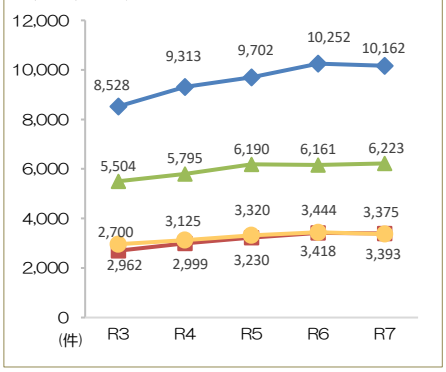
（13）延入院患者数



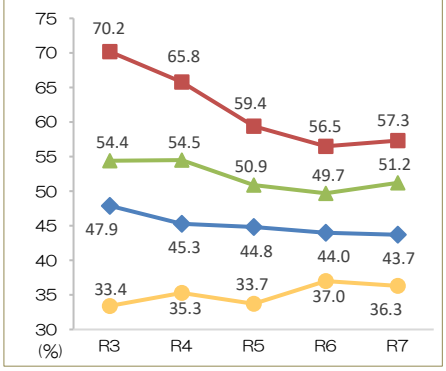
（14）延外来患者数



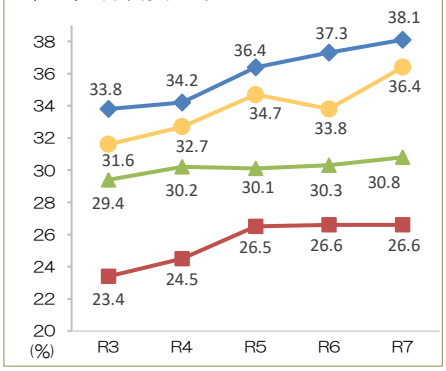
（15）手術件数



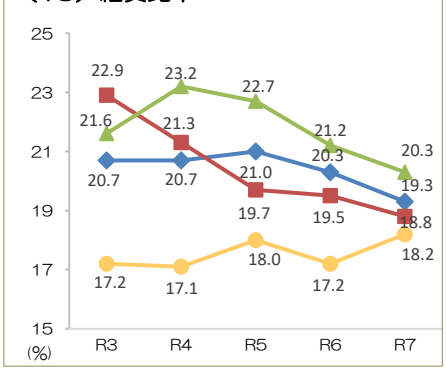
（16）給与費比率



（17）材料費比率



（18）経費比率



経常損益・単年度資金収支

